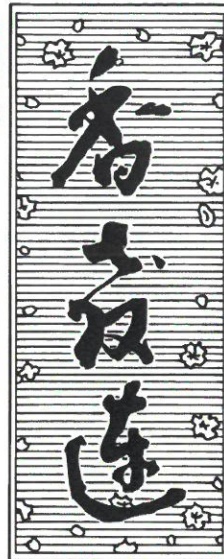


吉田光成氏を迎えて教育講演会開催!



香川県教職員連盟機関誌
発行所: 香川県教職員連盟
発行者: 安本 薫

〒760-0004
高松市西宝町2丁目4番60号
香川県教育会館602号

TEL (087) 835-2721
FAX (087) 835-2723

http://www.kakyoren.com/
E-mail: info@kakyoren.com
毎月10日発行 定価1部50円
(年間1,000円 送料とも)
会員の購読費は会費の中に含む

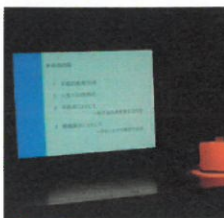
香教連は、結成四十四年を迎えた、子供中心の教育を目指し、健全なる批判力をもつ、県内最大の教職員団体です。



香川県教育文化研究所は香川県小中学校管理職員協議会との共催で毎年開催している教育講演会を二月九日(土) 十四時より香川県教育会館ミュージズホールにて開催した。今年度は元香川県教育委員会義務教育課長、文化行政課課長、現在文部科学省研究振興局研究振興戦略官の吉田光成氏をお迎えし「人生一〇〇年時代における教育を考える〜平成時代の教育と働き方改革」と題し、御講演いただいた。

吉田氏は、平成十七年から香川県教育委員会文化行政課課長として一年間、平成十八年から義務教育課長として二年間、御尽力いただいております。香川の教育に対しても深く理解いただいている。

当日は一〇〇名を超える参加者が吉田氏の話に熱心に耳を傾ける姿が見られた。『平成の教育の三〇年』『人生一〇〇年時代』『子供のこととして』『新学習指導要領の方向性』『教職員のこととして』『学校における働き方改革』の四つ視点から、詳しく話していただいた。昨今、教職員の働き方改革がクローズアップされている中、学校現場における業務改善の様々な取組事例を挙げていただいた。



参加者からは、「現実として、現場での業務改善を図っていくには様々な課題があるが、具体例をいくつか紹介していただいたことで、とても参考になった。」といった感想が多く挙げられた。



人事に関する要望を県教委に!



香教連は一月三十日(水)、香川県庁北館四階四〇一会議室において、香川県教育委員会へ「人事に関する要望」を開催した。香教連からは安本薫委員長他五名が出席、県教委側は、工代祐司教育長他九名が対応した。香教連からの

主な要望は次の通りである。

- 小学校英語の実施にあたり、子どもたちにより質の高い英語教育を受けさせるために、各小学校への英語専科担当教員の配置や、英語教育充実のための小中学校連携事業の取組をさらによりよいものに充実させていくためにも中学校英語科教員も計画的な増配置の推進。
- 組織的な教育力を充実させるため、学校の実態に応じた人材の増配置を行うとともに、積極的に市町教育委員会に働きかけること。
- 若年教員の増加に伴い、結婚等特別な事情がある場合、本人の置かれた状況を勘案した人事異動を行うこと。
- 管理面接において各自の勤務地域について確認するとともに、地域間異動の経験を考慮した人事異動とすること。
- 校種間異動について、管理面接等で確認をしっかりと行い、本人の意思を尊重した人事異動とすること。
- 公立学校教員採用選考試験において、講師に対する特別選考の継続と優秀な人材の確保。

これらの要望について、小柳和代義務教育課長より丁寧な回答があった。最後に工代祐司教育長からは、「先生方の事情など本当によく考えて要望しているのが伝わってくる。要望に対して応えられるよう努めるとともに、働き方改革においても共に考え協議を重ねていこう。」とお言葉をいただいた。

また、十二月に会員の皆様に提出していただいた会員票を元に一人一人の異動希望をまとめ、地域をまたぐ異動希望は香教連が県教委、各教育事務所、地域内での異動希望や強い留任希望等については、各単組が各教育事務所、各市町教育委員会に確実にお伝えしている。今後も先生方のライフプランを考えた人事異動となるよう、要望を続けていく。



香教連第八十回評議員会開催



二月三日(日)、全日本教職員連盟第八十回評議員会が都市センターホテルで開催された。香教連からは、安本薫委員長、高木俊彦副委員長、原順之介事務局次長の三名が出席した。

今年度の活動経過報告や成果、来年度の活動方針、行事計画などの議案が審議された。組織の強化・拡大の状況や昨今の教育課題についても評議員から質問があり、熱心な議論がなされた。

全日教連は、これらの教育課題に対し、国の動向を見ながら、全日教連としての考え方をまとめ、提案していくとした。最後に本年度をもって退任する安本薫全日教連副委員長をはじめ、全日教連役員が紹介され、その労をねぎらった。



「ほっとけない「ゲーム依存」子どもたちを守ろう!」という記事を読む度、納得させられることが多い。記事には様々な立場の方が、子どもたちのインターネットやゲームへの依存について意見を述べている。県内の学校においても、この記事の適切な利用について啓発する動きが新聞でも紹介されている。▲香教連においても、先日「メディアが子どもに与える影響」というテーマで養護教諭部研修会を実施した。とりつりん病院の菜名医師から、様々な事例を紹介していただいた中で、子どもたちへの影響を危惧する声も参加者からも多く見られた。保護者向けに授業参観や学校保健委員会でも話を聞かせてほしいといった声も挙がっている。

▲現在、子どもたちの遊びの中でゲームやインターネットの正しい使い方や危険性については学校だけでなく、保護者にも啓発していくことが必要不可欠である。子どもたちの健全な成長を支えていくためにも。(薫)